

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2873100560		
法人名	株式会社 ユニマツリタイアメント・コミュニティ		
事業所名	川西ケアセンターそよ風		
所在地	兵庫県川西市出在家町22-7		
自己評価作成日	2023/2/25	評価結果市町村受理日	令和5年6月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp/28/
----------	-------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 H.R.コーポレーション
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6-25-224
訪問調査日	令和5年3月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な環境のもとで、認知症の進行緩和、心身状態に合わせたケアを心掛けております。医療機関との連携を図り、その人らしい暮らしを続けることを支援しております。馴染みの関係、家族の思いを大切に、看取りも受け入れております。誤嚥性肺炎を予防するために、口腔ケアを徹底し、経口摂取で食事を召上って頂くよう取り組んでおります。季節イベントを大切にし、楽しみの場を提供しております。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

共用空間はガラス窓からの採光で明るく、長い直線の廊下は歩行訓練にも活用されている。介護計画・モニタリング等について、PDCAサイクルにもとづいた取り組みが機能しており、記録もよく整理されている。介護計画書に沿って「介護援助計画表」を作成し、詳細な介護手順や留意点を共有し、個別支援・自立支援に取り組んでいる。利用者のADL・好みに応じて、体操・レクリエーション・家事作業・歩行訓練等に参加できるよう支援し、日常生活の中で楽しみや役割を持ち、心身機能の維持向上が図れるよう取り組んでいる。毎食手作りの食事を提供し、行事に因んだイベント食、デリバリー等も企画し食事が楽しめる機会作りを行っている。市のバイタルリンクを活用し、医師・訪問看護師・薬局と情報共有しながら医療連携を図り、家族の思いを大切にして、看取り介護にも対応している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および第三者評価結果

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念に「私たちは世界一のしあわせ創造企業を目指します」を掲げ、認知症ケアを追求しております。	法人の理念・基本方針を共用している。事業所独自に、「グループホーム3大ポイント」・「川西ケアセンターそよ風の目標」を策定し、事業所目標の中に地域密着型サービスの意義を取り入れている。事業所目標は2階事務所、3大ポイントは1階玄関に掲示し、職員の共有を図っている。理念・基本方針・3大ポイント・施設目標等について、全体会議で職員が実践状況を具体的に振り返る機会を定期的に設けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在、コロナ影響により地域イベントなどは控えている状況。	コロナ禍以前は、利用者が地域に出かける機会を設け、定期的なボランティアの受け入れ等、地域交流に取り組んでいた。今年度は通常の交流は行えていないが、日用品購入等での地域の社会資源の活用、地域包括支援センターと連携して困難事例の受け入れ、職員による近隣の畑活動を通じての住民との交流、AED・防犯カメラの設置等、可能な方法で地域交流・地域貢献の継続に努めている。また、近くの公園での花見で保育園児等との交流を計画している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	困難事例の受け入れなどを積極的に行い、心身共に健やかな生活を送って頂けるよう多職種協働で行っています。		

川西ケアセンターそよ風

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	<p>○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>ご家族様や、地域包括支援センター職員の方々のご意見やご要望を伺い、それらを職員と共有することでサービスの質向上に努めています。(コロナ影響により書面でお知らせしております)家族様には、電話の際など意見いただくよう努めております。</p>	<p>家族・地域包括支援センター職員・事業所職員を構成委員とし、2ヶ月に1回開催している。令和4年度は、7月に集合開催し、他は書面会議としている。全家族に開催案内・出欠表を送付し、集合開催時には多くの家族の参加がある。開催時には、利用者・職員状況、行事、面会対応等への取り組み等を報告し、参加者から意見等の把握に努めている。書面会議時には、事前に地域包括支援センターから意見把握し、上記報告内容とともに議事録を作成し、地域包括支援センター・全家族に郵送している。意見等があれば電話や面会時に伝えてほしい旨を議事録に記載し、あれば次回の議事録に反映している。玄関に議事録ファイルを設置して公開している。</p>	<p>コロナ終息後には、会議の構成委員に、知見者・地域代表者の参加、また、可能な範囲で、利用者の短時間参加を検討し、多方面からの意見をサービス向上に活かすことが期待される。</p>
5	(4)	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>事業所で判断せずに、不明点は問い合わせを行い、実地指導においても実情を報告し相互理解を図っております。</p>	<p>運営推進会議を通して、地域包括支援センターと連携している。市・保健所等から新型コロナウイルス関連の情報提供を受け、感染予防対策に反映している。公的支援を要する利用者を受け入れており、制度利用について生活保護課等市の担当窓口から助言等を得て、適切な運営に取り組んでいる。市の集団指導への参加や、随時事故報告等を行い、不明な点があれば適宜、介護保険課に電話で確認し、協働して利用者支援に取り組んでいる。</p>	

川西ケアセンターそよ風

自己 者 三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5) ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関には、防犯上のこともあり施錠しておりますが、センター内でも研修を行い、利用者の安全を図りながら自由な暮らしを支援しております。	法人共通の「身体拘束等の適正化のための指針」を整備し、身体拘束をしないケアを実践している。令和4年度は、4月から8月は毎月、その後は2ヶ月に1回「身体拘束適正化・虐待防止検討委員会」を全体会議の中で出勤職員が参加して実施し、「身体的拘束の該当者数」がない事の確認と、適正化に向け検討している。委員会議事録の回覧捺印により、職員への周知を明確にしている。入職時研修とともに、年間研修計画に沿って「身体的拘束等適正化に向けて」研修を年2回実施し、参加できなかった職員には資料配布、全職員の報告書の提出により、受講と理解を確認している。玄関は開錠操作が必要であるが、利用者に外出の意向があれば、公園・駐車場への散歩や、ウッドデッキ・ベランダでの外気浴等、閉塞感を感じないように対応している。	実施した研修について、研修計画表の「実施日」欄に実施日を記載する等、計画に沿った実施の明確化が望まれる。
7	(6) ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体会議にて研修を行い、ご家族様からの意見も反映させながら知識・意識向上と虐待の防止に努めております。	昨年度、高齢者虐待防止についても、上記身体拘束適正化と同様に、研修と委員会活動を実施している。令和4年度は、今年度中に研修実施を計画している。法人の入職時研修とともに、「NG(no虐待)プロジェクト」運動を展開し、「虐待の芽チェックリスト」による振り返り・ポスターの事務所への掲示等により意識向上を図っている。気になる言葉かけ等について、必要に応じて管理者・リーダーが注意喚起・助言を行い、不適切ケアの未然防止に努めている。ストレスチェックの実施、定期的及び随時の個別面談、法人の相談窓口の設置を行い、職員とのコミュニケーションづくりに努め、職員のストレスや不安がケアに影響しないように取り組んでいる。	

川西ケアセンターそよ風

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全体会議研修にて学ぶ機会をもつと共に、成年後見人制度の必要性を理解し、情報提供が出来るよう取り組んでおります。	権利擁護に関する制度について、「成年後見制度について」研修で、厚労省資料を用いて研修を実施している。現在、成年後見制度を利用している事例があり、後見人への状況報告や金銭管理書類の提供等、制度利用を支援している。今後も、制度利用の必要性や家族からの相談があれば、管理者・介護支援専門員が制度説明・相談等に対応し、市の関係機関を紹介する等利用に向け支援する体制がある。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学時、契約時に重要事項説明書に沿った説明を行い、不安や疑問の解消を図っております。その都度質問に対してはお答えしております。	入居希望があれば、見学時に、パンフレット・料金表・資料をもとに、サービス内容・利用料金等を説明している。契約時には、管理者が、契約書・重要事項説明書・指針・同意書等に沿って説明し、文書で同意を得ている。特に重度化・終末期対応等については、詳細に説明し不安や疑問の解消に努めている。契約内容の改定時は、管理者変更等はお知らせ文書の郵送、加算等料金変更時は改定内容を説明した別紙文書を郵送し、電話説明の上文書で同意を得る等、改定内容に応じ適切に対応している。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様面会時などで要望聞くこと、ご意見箱の設置の他それらを各種会議にて共有し、ケアの向上を図っております。	家族面会時(予約制、玄関・2Fロビー、短時間)、電話連絡時、ご意見箱設置等により、家族の意見や要望の把握に努めている。写真付きで毎月「そよかぜ新聞」を郵送し、家族に行事や生活の様子を伝えられるよう取り組んでいる。把握した内容は「連絡ノート」で共有している。法人が毎年家族アンケートを実施し、結果から把握した要望を反映し、制限付きではあるが面会対応につなげている。利用者の意見・要望等については、把握時は「連絡ノート」で共有することとしている。運営推進会議開催時には、複数の家族が参加し、家族が外部者へ意見等を表せる機会を設けている。	

川西ケアセンターそよ風

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は各種会議で状況の把握や検討の他、個人とも話す機会をもち運営に反映できるよう努力しています。	基本的には月1回、全体会議・ユニット会議を開催し、職員の意見・提案の把握に努めている。全体会議では、センター長報告・入退職者情報・イベント等の情報共有、ユニット会議では利用者毎のカンファレンス・業務等について検討している。検討内容や意見等をリーダーが集約し、議録録で共有しながら、業務や利用者支援に反映している。日々の業務に関する検討事項があれば、朝礼で情報交換し、検討事項は各ユニットの「連絡ノート」で共有している。センター長・管理者が定期的、随時に個人面談を行い、個別に職員の意見等を聴く機会を設けている。法人相談窓口等を活用し、メール等で職員が法人に意見を直接伝える仕組みがある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	事業部長に対して都度相談し、センター訪問して頂き職員と話す機会を作り、環境整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本社でも年間研修を実施しており、センター内でも全体会議にて研修を活かし介護質向上に努めております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	会社内にて協議会参加し、サービス質向上のため情報交換行っております。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様の生活歴を把握し、信頼関係築くことに努めております。		

川西ケアセンターそよ風

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様の立場に立ち、まず傾聴を行っております。ご家族様の思いを尊重したうえでサービスの特色をお伝えし、関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	診療情報確認、事前面談と入所判定会議において初期対応の見極めと支援に努めております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	相手を尊重した声掛けと対応により、「利用者本位」「自立支援」という介護保険の根幹を意識して日々の生活を一緒にさせて頂いております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	チームケアを推進していくうえで、ご家族様の思いなどは尊重させて頂いております。		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の方の来訪・電話など以前の関係が継続できるよう、職員が間に入りながら支援しております。	馴染みの人や場所について、入居時に把握した情報は「アセスメント表」に、入居後の日々の会話等で把握した情報は連絡ノートやケアカルテで共有を図っている。通常は、家族の面会や馴染みの場所への外出を支援しているが、現在は、ラインによるビデオ通話の活用や、ロビーでの短時間面会により、家族・(家族の了解を得て)友人・知人と面会できる機会を設けている。また、例年は、暑中見舞い・年賀状の交換による関係継続を支援していたが、現在は電話・手紙等の取次ぎにより支援している。	

自己 者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	人生観・価値観がお一人ずつ違う中で、食事や余暇の時間など、心地よい距離感はどこにあるのかを意識して、関わり合いや支え合いに努めております。		
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じてご本人とご家族の経過をフォロー、利用時の状況や介護の工夫、好みなどを伝え、連携がスムーズにいくよう配慮しております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	(12) ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	事前に多くの情報と意向を集め、カンファレンスにて「望む暮らし」「なりたい自分」は何かを検討し把握に努めております。介護計画書更新時に、家族様から得た情報を反映しております。	入居時に聞き取った、趣味・生活歴・一日の暮らし方等を、アセスメント表(一年ごとに更新)に記録し、利用者個々の思いや暮らし方の希望の把握に努めている。入居後の会話の中で把握した趣味・思いや意向等は、ケアカルテで共有を図っている。アセスメント表更新時に追記し、蓄積した情報の共有と、介護計画や利用者支援に反映できる資料として活用している。意向の把握が困難な場合は、表情や反応から汲み取り、本人の思いや意向に沿った支援ができるよう取り組んでいる。	
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族からの聞き取りの他、これまで関わっておられたケアマネージャーが居られればその方にも連絡を行い、これまでの暮らし方やサービス利用時の様子の把握に努めております。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その方の生活習慣やこだわりを大切にして、スタッフ間での報連相と情報の共有を行う事で、現状の把握に努めております。		

川西ケアセンターそよ風

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(13)		<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>毎月実施するカンファレンスとミーティングを行い、ご本人とご家族の要望を反映させた介護計画が作成できるよう取り組みを行っております。計画作成担当者が策定し、ケアマネージャーが確認しています。その後、計画書を家族様に送り、内容を電話で説明後同意を得ております。</p>	<p>「アセスメント表」をもとに、初回の「介護計画書」と、介護計画をもとに、利用者担当が「介護援助計画表」を作成している。「ケアプラン一式」ファイルを各ユニットに設置し、介護計画のサービス内容の実施状況を「モニタリング結果」に○・△・×で記録することにより、計画内容の周知を図り、計画に基づいた実施状況を明確にしている。生活状況等は「ケアカルテ」に記録し、申し送り事項は赤字一覧で共有している。「介護援助計画」には、食事・入浴・排泄等についての自立度や介護の手順や留意点を記載している。毎月のユニット会議で、利用者カンファレンスを実施し、利用者状況の共有・見直しの必要性について検討している。大きな変化がなければ、定期的には短期目標に合わせて3ヶ月毎に、介護計画の見直しを行っている。見直し時は、「モニタリング総括表」で短期目標毎にモニタリング・評価を、「介護援助計画」で再アセスメントを行い、ユニットでカンファレンスを開催して検討し「サービス担当者会議要点」に記録している。本人・家族等の意見・希望は介護計画(1)に記録し、かかりつけ医等関係者の意見があれば担当者会議録に記録することし計画に反映している。</p>	
27			<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>その人にとっての介護計画を作成するに当たり、ありのままを個人記録に記録、情報の共有を図る事で介護計画の見直しに役立てております。</p>		
28			<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>医療との連携が必要な方が増えておられる中で入院される方も多いです。退院時などはご家族とも協議し、その都度生まれるニーズに柔軟に対応できるよう取り組みを行っております。</p>		

川西ケアセンターそよ風

自己 者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナの影響により地域の催し事に参加はできおりませんが、畑を通じて近所の方と交流はあります。		
30	(14) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医の指示に迅速に対応できるよう職員間での連携は図っております、川西市のバイタルリンクの活用も行っております。	契約時に事業所の医療体制を説明し、利用者・家族の意向に沿った受診を支援している。2週間に1回内科医、月1回心療内科医の訪問診療、希望者には週1回歯科衛生士による検診、必要に応じて皮膚科の往診を受けられる体制がある。通院による受診は家族同行を基本とし、かかりつけ医の診療情報提供書等で情報提供を行っている。事前の情報提供も含め、医療に関する事項はケアカルテで共有している。市のバイタルリンクを活用し、医師・訪問看護師・薬局・事業所間で連携し情報共有している。	
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護との契約を行い、24時間の連携を確保しております。よって早急な対応がご利用者の疾患や疾病を重症化させないよう努めています。		
32	(15) ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、介護サマリーはもちろん主治医の紹介状必要であれば依頼しております。退院時は、カンファレンスに参加し医療と介護の切れ目のないサービスを心掛けております。	入院時は、事業所から介護サマリー・かかりつけ医の診療情報提供書等で医療機関に情報を提供している。現在は面会が困難な状況であり、主に管理者が家族経由で情報把握を行い、入院中の経過を「連絡ノート」「ケアカルテ特記事項」で共有している。退院前・退院時には主として「看護サマリー」で情報提供を受け、家族からの情報も参考にしながら、受け入れ時期の検討、必要に応じて介護計画の見直しを行い、退院後の支援に活かしている。	

川西ケアセンターそよ風

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に看取りに関する指針の説明を行い、重度化した場合にも再度主治医と面談を実施し、看取りに向けて支援を行っております。また、職員に負担にならないよう配慮しております。	契約時に「重度化・看取り対応指針」に沿って、医療連携体制や重度化・看取り対応に関する事業所の方針を説明し同意を得ている。今年度事例はないが、重度化を迎えた場合には、主治医から家族が状況説明を受け、現状の共有、意向確認を行っている。看取り介護の希望があれば、主治医・事業所夫々が、看取り介護についての同意書で同意を得て、介護計画の見直しを行っている。主治医・訪問看護師・薬局薬剤師・介護士等が連携し、家族の意向に沿った支援に取り組み、家族対応や支援についての経過はケアカルテで共有している。センター長は医師主催の「看取りについて」の外部研修を受講している。職員にも、「看取りについて」研修を今年度中に実施する計画である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全体会議・外部研修に参加し、AEDの設置も完了しております。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練・定期的な消防設備点検を実施しております。自然災害に対しても訓練行っております。研修にて、報告書をスタッフに求め情報共有を行っております。	令和4年度は、昼間想定総合訓練を2回実施している。訓練には参加可能な利用者は参加し、また、できるだけ多くの職員が参加できるようシフト等を工夫している。訓練実施時には、「防災訓練計画書」「防災訓練報告書」を作成し、問題点・反省点を振り返る機会を設けている。報告書の回覧により、訓練に参加できなかった職員にも訓練の内容や評価について周知を図っている。1階の倉庫上部に法人支給の米や缶詰等を3日分程度備蓄し、本社が内容や期限の管理を行っている。今年度中に、夜間想定訓練・水害訓練（垂直移動避難訓練）の実施を計画している。	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	羞恥心や自尊心に配慮した声掛けや対応を行い、ご利用者一人一人の尊厳保持・プライバシーの確保を支援しております。	「高齢者虐待」「身体拘束拘束」等の研修で、人格尊重、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応について学ぶ機会を設け、年度内に「認知症ケア」「プライバシー保護」研修を計画している。「虐待の芽チェックリスト」の活用で、不適切な言葉かけや対応についても振り返る機会を設けている。気になる言葉かけや対応があれば、管理者が都度、助言や注意喚起を行い不適切ケアの防止に努めている。写真・映像の使用については、契約時に文書で同意を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己選択・自己決定につなげる関りを心掛けております。また、自己の表現が困難な方においては、代弁機能としてその人になりきった対応を行っております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	認知症ケアとして、規則正しい生活は必要ですが一人一人の生活ペースと意向を把握して利用者本位のケア提供に努めております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容を利用し、身だしなみやおしゃれの支援を行っております。		

川西ケアセンターそよ風

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	各ユニットで利用者の状態に合わせてアレンジして作っております。調理の際の匂いや音など五感に働きかけております。	本社から献立表・食材が届き、各ユニットで毎食手作りの食事を提供している。本社献立には、ひな祭りのちらしずし等季節感や行事食等が採り入れられている。「介護援助計画表」で、利用者個々の食事介助についての留意点等を共有し、個別の食事形態にも対応している。通常は、外食機会を設けているが、現在は敬老の日や花見弁当等にデリバリーを活用したり、バーベキューパーティを行う等、食事の変化を楽しむ機会を設けている。可能な利用者は、下膳・テーブル拭き等に参加できるよう支援している。また、誕生日会をユニット内で行い、ケーキで祝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は食事形態に工夫しながら対応しております。特に水分は、1500cc/日を目標に支援しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性を理解し、起床時と就寝時の他、毎食後口腔ケアを実施しております。必要時に応じて、訪問歯科診療を受けて頂いております。		
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の自立は自尊心の自立と考え、排泄表を用いてトイレでの排泄が行えるよう支援しております。	「介護援助計画表」で利用者個々の排泄介助についての詳細な手順や留意点を共有し、職員間で統一したケアに努めている。「タブレット排泄記録」や「排泄チェックボード」から、個々の排泄状況・排泄パターンを把握し、日中は基本的にはトイレでの排泄が継続できるよう支援している。状況に応じてベッド上での介助にも対応している。夜間は安眠に配慮し、利用者個々に応じて対応している。介助方法や排泄用品の使用に検討事項があれば、迅速に検討して「連絡ノート」で共有したり、適宜ユニット会議で検討する等、現状に適した支援につなげている。誘導時の声かけやドアの開閉等、プライバシーへの配慮を周知している。	

川西ケアセンターそよ風

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44			○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量1500cc/日を目標に、お通じに効果ある食事や飲み物を提供、体操などで自然排便を促すと共に、訪問看護とも連携しながら便秘予防と対応に努めております。		
45	(21)		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の時間は、信頼関係を築く貴重な時間と考え、清潔保持の目的のみにならないよう配慮しております。お湯は都度入替え、機械浴も設置し重度化にも対応しております。	週2～3回・午前中の中の入浴を基本としているが、体調・希望に応じて日や時間帯を変更し柔軟に対応している。一般浴槽での個浴を基本とし、「介護支援計画表」で個別の配慮を行いながら、足浴・シャワー浴・二人介助・機械浴等、利用者の状況に応じて、安全に清潔保持できるよう支援している。入浴を嫌がる利用者には個別に対応方法を工夫し、タブレット記録や入浴チェックボードで入浴状況を把握しながら入浴機会の確保に努めている。一人ずつ湯を入れ替え、その人のペースでゆっくり入浴を楽しめるように支援している。	
46			○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	照明の調節、職員の声トーン、寝具などの就寝環境に配慮し、安心して眠って頂けるよう支援しております。		
47			○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医・訪問看護師・薬剤師・介護士の多職種協働で支援に努め、症状の変化など確認に努めております。		
48			○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活の中で、個々にあった役割意識を持って頂くよう関りを行っております。趣味活動の提案も行っております。		

川西ケアセンターそよ風

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49		(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在、コロナ影響により外出できておりません。ベランダにて外気に触れる時間を設けるよう配慮しております。	コロナ禍のため通常の外出支援は休止しているが、近隣・駐車場等への散歩・家族同行の通院等、可能な範囲で戸外に出かける機会作りに努めている。また、時期等を考慮しながら、コスモス鑑賞ドライブ等、季節の花が楽しめるよう工夫している。ベランダ・ウッドデッキを活用しての外気浴や、近隣に植栽されている梅の花を鑑賞する機会づくり等、戸外で気分転換できるよう支援している。	
50			○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	契約時に書面で同意を交わし、管理方法の統一しております。毎月、領収書と出納帳コピーをご家族様にお渡ししております。		
51			○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	センター内電話にて交流を支援しております。暑中見舞いや年賀状など字が書ける方にはお願いしております。		
52		(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	エアコン温度調整や加湿器設置して快適に過ごせるよう配慮しています。生活感、季節感を取り入れた装飾などや馴染みの曲を流したり居心地の良く過ごして頂けるよう配慮しております。	温湿度管理・換気・消毒・清掃を徹底し、パーティションを設置する等、快適性・衛生面に配慮している。テーブル席・ソファ席を各ユニットの利用者状況に合わせて設置し、利用者が好みの場所で寛げる環境づくりに努めている。キッチンが併設され、可能な利用者は、皮むき・テーブル拭き・下膳、また、洗濯物たたみ・掃除・ごみ箱づくり等家事に参加できるよう支援し、生活感が感じられるよう取り組んでいる。長い廊下は、個別の歩行訓練に活用し、日課としてCD体操、レクリエーションとしてカラオケ・脳トレ・パズル等を利用者のADL・好みに合わせて取り入れ、楽しみながら心身の機能低下予防に取り組んでいる。菜園は園芸活動に、ウッドデッキ・ベランダも共用空間として利用者支援に活用している。	共用空間に、利用者が日常的に季節感を感じられる環境の工夫が望まれる。

川西ケアセンターそよ風

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53			○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	集団生活の中でも、利用者同士が適度な距離感が必要と考え机の配置などレイアウトに配慮しております。	/	
54	(24)		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具などお持ち頂いて、落ち着いて生活できるよう工夫しているとともに、ご本人の望むレイアウトに配慮しております。	広い居室にクローゼット・カウンターテーブル・ベッド等を設置している。利用者の生活習慣等に合わせて、畳に布団敷きの居室もある。たんす・鏡台・椅子・仏壇・テレビ・家族の写真等、使い慣れた家具や馴染みの物が持ち込まれ、自宅と同様に居心地よく過ごせる居室づくりを行っている。職員から贈られた誕生日の色紙等を飾っている居室もある。居室担当職員を設け、掃除・整理整頓、また、家族と協力しながら衣替え等を支援している。動線に配慮して家具や道具を設置し、状況に応じて変更しながら、利用者が安全に移動でき自立した生活が継続できるよう環境整備に努めている。居室前に表札を掲示し、目印も工夫し、場所間違いの防止に努めている。	
55			○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の身体機能に合わせ、生活リハビリを主としながらADLの維持を図っております。	/	